

各位

2025年10月31日
大栄不動産

シンジケーション方式による ポジティブ・インパクト・ローンの実行について

当社は、株式会社埼玉りそな銀行(以下、「埼玉りそな銀行」)をアレンジャーとするシンジケーション方式でのポジティブ・インパクト・ローンによる融資契約を締結し、本日実行いたしました。

ポジティブ・インパクト・ローンは、国連環境計画・金融イニシアティブ(UNEP FI)(*1)が制定したポジティブインパクト金融原則(*2)に基づき、りそなグループ(埼玉りそな銀行およびりそな総合研究所株式会社(以下、「りそな総合研究所」)が連携して当社のインパクト分析・評価を行い、当社の企業活動が環境・社会・経済に与える影響(インパクト)を包括的に分析・評価し、特定されたポジティブな影響の創出とネガティブな影響の低減に向けた取組みを支援する融資です。

1. 本件ローンの概要

実行日	2025年10月31日
借入金額	50億円
借入期間	10年
資金使途	長期運転資金
アレンジャー兼貸付人	埼玉りそな銀行
貸付人	りそな銀行、関西みらい銀行

2. 当社グループのサステナビリティについて

当社グループは、「社会に貢献し、お客様に必要とされる存在であり続ける」との企業理念のもと、「当社グループのサステナビリティ」と「社会のサステナビリティ」の調和を図り、企業価値の最大化を目指すことを経営の基本方針としています。

本件ローン契約の締結にあたって、当社グループのサステナビリティ・ビジョンならびに重要課題(マテリアリティ)を中心に、社会的側面及び環境的側面からSDGs達成に向けた貢献について、埼玉りそな銀行およびりそな総合研究所による分析・評価に基づき下記3.のKPIを設定しました。

3. KPI

テーマ	E 環境負荷低減
SDGs項目	  
インパクト	エネルギー KPI ・再生可能エネルギーの利用推進 目標・方針 ・賃貸ビルにおいて顧客のニーズに合わせた再生可能エネルギーの導入促進 気候の安定性 KPI ・温室効果ガス排出量の削減率 目標・方針 ・2013年度対比で2030年度までにCO2排出量を原単位ベースで30%削減 対象施設：①省エネ法届出対象施設 ②実質的に当社が管理権原を有する証券化ビル ・保有物件におけるZEB化の推進 生物多様性と生態系（土壌、生物種、生息地） KPI ・自然環境の保全に貢献する取り組みの継続 目標・方針 下記取り組みの継続 ・埼玉県森林（もり）づくり協定 ・保有物件における屋上緑化や開発時における緑化設計の推進 ・開発事業における自然環境保全への配慮など ファイナンス KPI ・サステナブルファイナンスの活用 目標・方針 ・資金需要への対応におけるサステナブルファイナンスの活用推進
テーマ	S 地域活性化の取り組み
SDGs項目	 
インパクト	住居・インフラ・サーキュラリティ 健康および安全性 KPI ・立地・建物の状況に合わせた不動産ストックの有効活用の推進 ・安心安全なオフィス環境、住環境の提供 目標・方針 下記取り組みの継続 ・再開発における環境負荷の軽減 ・防犯カメラの設置や防災備蓄品の備え ・産業団地の開発事業（主に埼玉県内）を通じた企業誘致による地域貢献 文化・伝統 KPI ・スポーツ・文化振興につながる協賛活動の推進 目標・方針 ・スポーツ・文化振興につながる取り組みの継続



大栄不動産

「チームの力で、よりよい未来を」
-100年企業へ、その先へ-

社会に貢献し、お客様に必要とされる存在であり続ける

テーマ	S 安心安全で健康な組織・社会の実現		
SDGs項目	   		
インパクト	生計（社会的保護） KPI ・防災訓練参加人数割合（対象は既存ビル27物件） ・健康診断・人間ドック受診率 ・ストレスチェック受診率 目標・方針 ・防災訓練参加人数割合：30%（2034年目標） ・健康優良企業認定の継続 ・健康診断・人間ドック受診率100% ・ストレスチェック受診率100%		
テーマ	S 多様性を受け入れる企業風土の確立		
SDGs項目	  		
インパクト	生計（雇用・賃金） KPI ・女性の育児休暇取得率 ・男性の育児休暇取得率 目標・方針 下記取組みの継続 ・育児休暇取得の推進や時短勤務制度の設置 ・女性育休取得100% ・男性育休取得50%		
テーマ	G コンプライアンス・ガバナンスの継続的向上		
SDGs項目			
インパクト	生計（社会的保護） KPI ・コンプライアンス経営の推進 ・コーポレート・ガバナンスの維持・強化 目標・方針 下記取組みの継続 ・「大栄グループ倫理要領」や「コンプライアンス規程」等の遵守 ・リスク管理委員会、サステナビリティ推進委員会等の設置によるガバナンス体制の強化		

(※1)国連環境計画・金融イニシアティブ(UNEP FI):1972 年に「人間環境宣言」及び「環境国際行動計画」の実行機関として設立された国連の補助機関。UNEP FI は、 UNEP と 200 以上の世界の金融機関による広範で緊密なパートナーシップであり、1992 年の設立以来、金融機関、政策・規制当局と協調し、経済的発展と ESG(環境・社会・企業統治)への配慮を統合した金融システムへの転換を進めている。

(※2)ポジティブインパクト金融原則:UNEP FI が 2017 年1月に策定。企業が SDGs の達成への貢献を KPI で開示し、銀行はそのプラスの影響を評価して資金提供を行うことにより、資金提供先企業によるプラスの影響の増大、マイナスの影響の低減の努力を導く。融資を実行する銀行は、責任ある金融機関として、指標をモニタリングすることによって、インパクトが継続していることを確認する。

以上



大栄不動産

社会に貢献し、お客様に必要とされる存在であり続ける

「チームの力で、よりよい未来を」
-100年企業へ、その先へ-

【本件に関するお問い合わせ】



大栄不動産 企画財務本部 経理財務部(財務チーム)

サステナビリティ推進委員会・事務局



03-3244-0655



03-3244-0537